



「Ice Drift, Ocean Circulation, and Climate Change」

Jens Bischof 著

Springer-Praxis Publishing,

2000年, 215頁, 105ドル,

ISBN 1-85233 648-X

送られてきた分厚い本書を手にして、大変な事になったという思いが最初に頭をよぎった。本誌編集委員の依頼に気軽に応じてしまったが、実は評者にとって（この単語自体生まれて始めて使うのであるが）書評を書くのはこれが初めてである。しかし、引き受けてしまった以上、出かかった曖昧な言い訳を飲み込んで、腰を据えて本書をじっくり読み進めることにした。そんな訳で、以下、初心者の方の寸評にしばしお付き合い頂ければ幸いです。

単刀直入に言って、評者はどうもこの本が好きにない。「学術書であるかぎり好き嫌いは単に読者の都合であって、あくまで学問的内容を評価すべきだ。」そんな声が自分のなかで聞こえてくる。しかしそれにもまして、読書という行為の中で自然に生まれ得る、著者と読者との間における共通の意識が薄いのは一体何故だろうか？

さて内容であるが、「氷山及び海水により輸送された堆積物を基に再構築された、北極・グリーンランド・ノルウェー海域における古気候」という非常に専門的なテーマを取り扱っている。実際には著者の行ってきた研究成果をまとめたレポートのような構成を取っている。各々独立したグリーンランド・ノルウェー海域と北極海域における古気候の再構築という2つの章が全体の約2/3を占め、さらにラムケ氏が書き添えた海水に関する章を付け足したというような構成である。この全体的に離散的な構成が読感を悪くする一因となっている。また、データの記述が必要以上に長く、数ページもの表が延々と続く事も、本書を読みづらいものになっている。それでは、本書が教科書的な親切さを持っているかといえば、決してそうでもない。

他に気になった事で、定量的な視点の欠如が目についた。例えば、氷山の移流に関して力学問題を設定し、一定の境界条件のもとに数学的に解くというような手法を用いれば、大気と海洋が各々どれだけ氷山の移流に影響を与えているか大凡の知見が得られ、そこから

大気-海洋-海水・陸氷結合問題に関する定量的な議論への展開が可能だと思うのは評者だけであろうか？欠点をあげついでに言うと、本文で引用されている幾つかの図が抜けている。これは単なる編集ミスで済まされるにはあまりにもお粗末な話だ。

かなり酷評になってしまったが、少し違った見地からの意見も述べてみたい。それはグリーンランド・ノルウェー海域の特殊性である。古気候に留まらず、現在の大気・海洋の学問的枠組みの中でこの海域はある種の特別地域である。例えば、冬期この地域で卓越する低気圧の活動を対象としたベルゲン学派を中心とした観測的・理論的研究が、現代に至る気象学の発展に大きく寄与した事実は否めないであろう。また、大気の大西洋振動 (NAO) と結びついた研究も、近年脚光を浴びている北極振動 (AO) との関連を1つの触媒として益々盛んである。さらに海洋に目を向けると、全球規模での熱塩循環理論等は、まさしくこの海域で起こると考えられている深層対流が鍵を握っているとされている。これらの研究が盛んである要因として、地勢的に見て欧米中心の物の考え方が根底にある事実は否めないだろう。だが、それをさし引いて純粋に学問的に見ても、「興味深い」研究対象地域である。さらに、これらの現象及び素過程に対して、海水・陸氷 (大陸氷床) 過程が密接に関わり合っていることもまた事実で、それがこの地域をさらに一層面白い研究対象にしている。古気候の時間スケールにおいて大気-海洋-海水・陸氷過程がどのように関わってきたかについての仮説が、第8章 (まとめ) で述べられているが、それはその長所短所を含め現在の気候を考える上で傾聴に値する話だ。

自明ではあるが、本書の価値は読者である研究者の研究対象に大きく依存する。極域・寒冷域の研究者にとっては、グリーンランド・ノルウェー海域の特殊性や結合問題を考える上で良い取っ掛かりになるであろう。一方、他の大気科学や海洋学に関わる人にとっても、何らかのフィードバックは期待できるであろう。だが、そのような読者にとって、本書に納められている参考文献のリストは余りにも不親切である。参考文献の選択が著者の絶対的権利である事は重々分っているものの、リストに当然入って然るべき研究論文が見当たらないのは何故だろうと、思わず首を傾げたくになってしまう。

最後に、本書の中で大気力学を視点とした考察が皆無であった事が気になったが、これは本書というより

は我々も含めた学問全体の問題であるのかもしれない。その意味で、今後本書が取り扱っている古気候と大気力学との接点が、現在の気候に関する研究を触媒

として、是非増えてきて欲しいものである。

(メリーランド州立大学/米国航空宇宙局 浮田甚郎)



三菱財団自然科学研究助成の募集

1. **対象**：自然科学のすべての分野にかゝわる、すぐれて独創的な研究を助成の対象とします。さらに複数の分野にまたがる新しい現象を模索する実験・理論や、環境問題の基礎的研究も対象とします。
2. **応募資格**：原則として、1つのテーマとして独立した個人研究（当該代表研究者が日本国内に居住し、国内に継続的な研究拠点を有する場合、ただし国籍等は不問）。
3. **助成金額**：総額約3億円を予定。1件当たり2千万円以内。
4. **助成期間**：1年を原則とする。決定者への助成金贈呈は2002年9月の予定。
5. **助成申込書**：関係大学、研究所等宛てに送付済。三菱財団ホームページ（下記）からもダウンロード可。上記何れの方法にも依り得ない場合は、宛先記入済の返信用角2（A4サイズ）封筒に160円切手貼付の上、財団事務局宛て請求して下さい。
6. **応募期間**：2002年1月18日（金）～2月14日（木）必着
7. **申込書提出先**：財団法人 三菱財団事務局
〒100-0005 東京都千代田区丸の内2-5-2
（三菱ビル15階）
Tel：03-3214-5754, Fax：03-3215-7168
<http://www.mitsubishi-zaidan.or.jp>
なお、応募要領の詳細は気象学会事務局にあります。



一覧表

教官（東京大学気候システム研究センター）の公募	919 (12)
三菱財団自然科学研究助成の募集	928 (12)
「第43回科学技術映像祭」参加作品募集	938 (12)